

【問題提起】 第 13 分科会

職場の安全衛生と環境改善

- ◇運営委員 中嶋 啓子（熊本県医労連）
瀧川 聡（日本医労連）
鈴木 郁雄（千葉県医労連・全日赤成田）
- ◇助言者 東 昌子（滋賀県・ぜぜ診療所）

◇分科会趣旨／問題提起

日本医労連の「急性期一般病院における看護職員の腰痛・頸肩腕痛の実態調査」では、腰痛有訴率は「現在ある 68.1%」、「ここ1年 76.1%」、「看護職についてから 85.6%」と非常に高い結果となっています。改善させるためには、腰痛予防対策としての補助機器導入、労災等の学習も必要となります。

また、「看護職員の労働実態調査」では、人権侵害のハラスメントが増加し「セクハラ 12.7%」、「パワハラ 26.7%」が受けたことがある。セクハラは「患者から 72.4%」と最も多く、前回より 10 ポイント増加しています。パワハラは、「看護部門の上司が 55.2%」、「医師 44.3%」となっています。看護職員対象の調査ですが、すべての職種に共通の課題ということが出来ます。

労働安全衛生委員会を有効に活用して、私達の労働条件、職場環境改善をすることが重要です。

今回の助言者には、滋賀県・ぜぜ診療所の東先生にお願いし、運営委員には熊本県医労連の田中さんに加わって頂きました。日頃の労働安全衛生活動のレポート報告を受け、討論を深められるように企画中です。

◇募集する「レポート」

- ☆労働安全衛生委員会の活動報告
- ☆労働衛生の3管理(作業環境管理・作業管理・健康管理)の改善
- ☆セクハラ・パワハラ防止とメンタルヘルス対策
- ☆労災・腰痛・職業病対策
- ☆その他

◇分科会運営の概要

レポート報告と討論、助言者の講演等により、職場の労働安全衛生活動の前進のための気づきと参加者の交流の場としたい。

◇参加の呼びかけ

労働組合として取り組んでいる職場の労働安全衛生活動における課題と改善についてのレポート報告を募集します。また日頃の活動における悩みや問題などを持って参加されても結構です。参加者の積極的な討論で解決策を一緒に考えていきましょう。多くの仲間のご参加をお待ちしています。